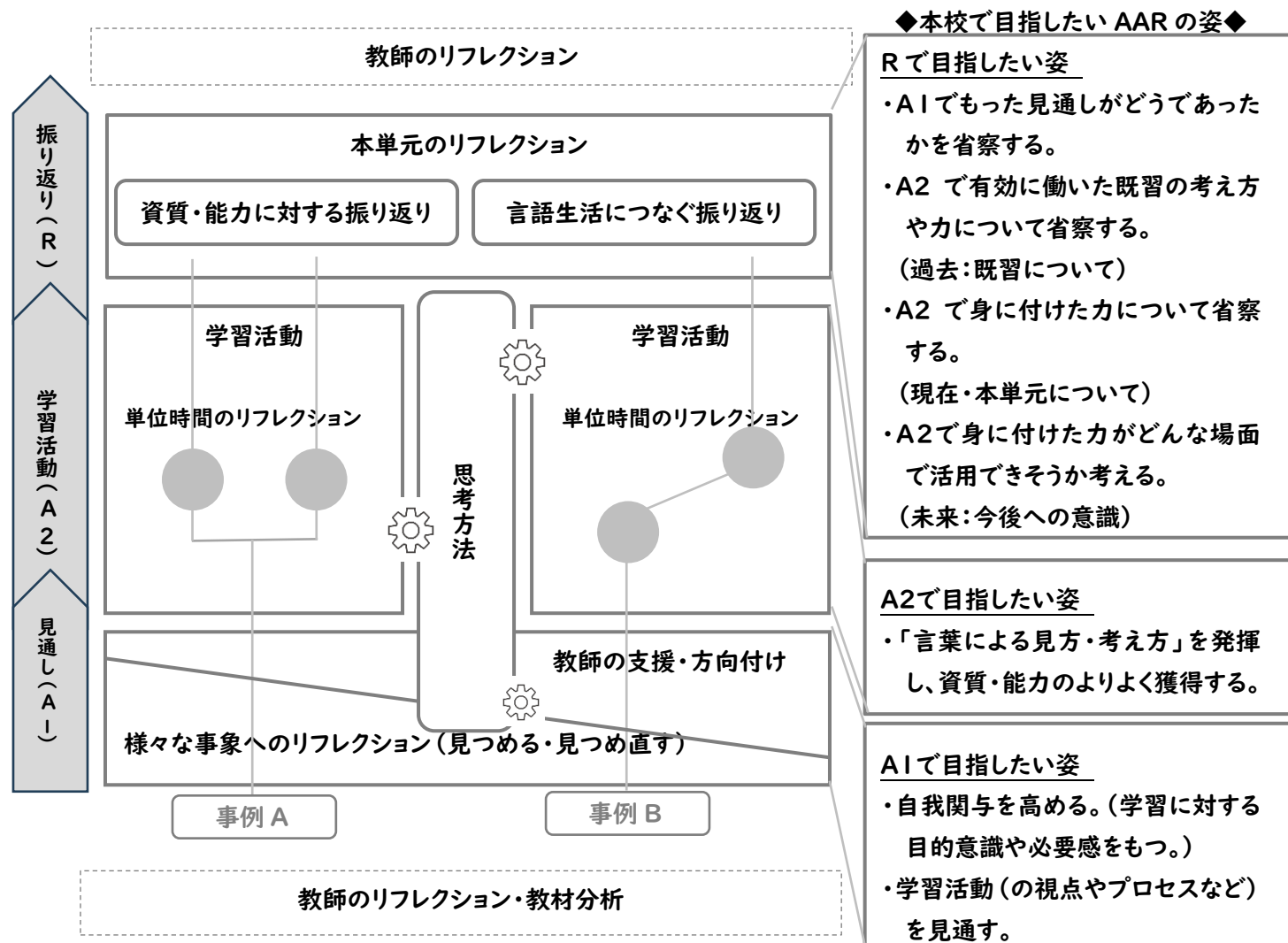


◆単元づくりの概要◆



なお、この AAR サイクルを駆動させる一つの手立てとして、リフレクションを想定している。

リフレクションとは、自分自身や他者、社会全体の事象を対象としたことを見つめる・見つめ直す行為のことを指す。自己の省察（内省）には、自分がした行為が主な対象であるが、自分自身のみを省察の対象とするよりも、他者や集団、様々な事象をも対象にすることで、考えの偏りを認知したり修正したりする機会が増えることを鑑み、対象の範囲を広げている。そうすることで、自己の認識を再確認したり、集団の考えと自分の考えを比較することで自分の立ち位置に気付いたり、よりよい目標を見出したりすることが望めるはずである。

ただし、A₁と R の各場面におけるリフレクションの対象は明確に異なる。

A₁では、その単元の前までに自分のしてきた行為や経験、知見に対するリフレクションであり、Rでは、その単元内の成果や課題、過程へのリフレクションが主となる。

また、A₂で発揮すべき「言葉による見方・考え方」は、資質・能力のよりよい獲得のために、どこに「着眼」するか、その上で「どう考えるか（思考方法）」をそれぞれ、見方・考え方と捉えている。